

熊本城復元整備

耐久性の確保に現代の技術も生かす

熊本城ではこの連休を最後に、昨年1月から始まった築城400年祭が幕を閉じた。終盤の目玉の一つは、4年半がかりで復元工事を終えた本丸御殿大広間の公開。西南戦争で焼失した対面所を、400年祭の開催に合わせて「史実に忠実に」復元し、内部を回覧させるものだ。この本丸御殿大広間で、外壁や土台など外に面する木部を保護する目的で使われたのが、キシラデコール。耐久性の高さから、築城当時使われた墨に代わる木材保護塗料として選ばれた。熊本城復元整備の全容と、建造物復元で木材保護塗料の果たす役割を、整備計画を担当した熊本市経済振興局観光振興部熊本城総合事務所の下田誠至氏に聞いた。



熊本市経済振興局 観光振興部
熊本城総合事務所整備班技術主任
下田 誠至 氏

——まず熊本城復元整備計画の全容を教えてください。

下田 ● 熊本城には築城当時、大小の天守閣をはじめ、49の櫓と18の櫓門、29の城門がありました。このうち現存するのは、重要文化財に指定されている13の建造物と、1960年に完成した大小の天守閣をはじめ、復元された建造物です。

復元整備計画は熊本市が1997年度に策定したもので、向こう30～50年をかけて往時の雄姿を復元するとともに、市民や観光客に利用される整備

を目指しています。

入場者数の回復も、狙いの一つです。かつては年間100万人に達していたものの、その後、減少の一途をたどっていて、ここ数年は、年間80万人にまで落ち込んでいました。これを復元整備で取り戻す考えです。年間100万人を目標にすえています。

整備方針は、①歴史的建造物の復元と保存②都市の潤い空間としての環境整備③サービス空間の創出——の3本です。築城400年にあたる2007年を目標にすえた短期計画ではまず、

「歴史的建造物の復元と保存」に力を入れることにしました。

——具体的には、どの建造物をどう復元整備するのですか。

下田 ● 対象としたのは、10年近く前に台風で倒壊した櫓門を含む7つの建造物です。これらの建造物を、98年度から順次、復元してきて、この3月、最後に完成したのが、本丸御殿大広間です。復元整備にかかった総事業費は約89億円にのぼります。

事業費の一部は、文化庁や国土交通省、熊本県からの補助金を充てました。このほか、熊本市で復元基金を募りました。目標額15億円に対して、約12億600万円の寄付をいただくことができました。この基金もその名称通り、全額を復元整備に充てています。

例えば、本丸御殿大広間の復元整備は、事業費約54億円に達します。このうち約14億円を国土交通省からの補助金で、同じく約11億円を復元基金からの資金で賄いました。

——復元整備にはどのような考え方で臨みましたか。

下田 ● 基本方針は「史実に忠実に」ということです。ただし、必要に応じて現代の工法や部材を用いることも検討しました。

建築基準法の規定は適用されませんが、地震や台風に対する安全性は確保する必要があります。入場者の安全という観点から、この点は「史実」より優先せざるを得ません。

したがって、構造材を追加したり、断面寸法を大きくするなど、見えない部分で構造補強を施しています。瓦の留

め具としてくぎを使う場合には、往時のように鉄製を使うと、さびによる膨張で瓦を割ることも考えられるので、いまのステンレス製を使っています。

「史実に忠実に」という基本姿勢を厳守しつつ、目に見えない部分は安全第一の考え方で臨みました。

また、野地材・軒先材・軸組外部、床下などに、防蟻剤であるキシラモントラッドを用いています。シロアリの被害が現実に出ている中で、現代の技術を生かそう、という考え方です。

——外壁や土台など外に面する木部の保護に関しては、いかがですか。

下田 ● 往時には、松煙を材料とした墨を使ってきた部分です。ここではやはり、耐久性を第一に考えながら、一方で、見た目が同じであればいい、と判断しました。

例えば、本丸御殿大広間では高さ15mにも及ぶ石垣伝いに足場を組んで、木部の保護を施します。仮設費だけで何千万円もの金額がかかるので、そうすぐには塗り替えができません。最低でも5年はもってほしい。

木造三層五階建ての飯田丸五階櫓。2005年2月に復元。高さ15メートルもの石垣の上に建つ（写真提供：熊本城総合事務所）



こうした判断から、本丸御殿大広間をはじめ、復元整備した建造物のいくつかで、キシラデコールを用いています。耐久性の確保に現代の技術を生かそうとする考え方も、そこにあります。

木造三層五階建ての飯田丸五階櫓も、木部保護の目的で外壁にキシラデコールを塗布した復元建造物のひとつです。櫓内には復元工事の様子を詳しく紹介した写真も展示



キシラデコール「ジェットブラック」3回塗りの仕上がり

しており、ぜひごらんになっていただきたいと思います。——木材保護塗料を施す工事は、どのように進めたのですか。

下田 ● 本丸御殿大広間では、キシラ

デコールの「ジェットブラック」と呼ばれる黒色を、外壁や土台など外に面する木部に用いました。加えて、「オリーブ」と呼ばれる茶色を古色仕上げとして、地下通路に面する柱や梁など木部に用いました。

「ジェットブラック」を塗った箇所は、とりわけ高い耐久性を必要としたことから、標準である2回塗りの上にさらに

高い耐久性を求めて3回塗り施す

重ね塗りを施して、3回塗りにしました。下見板を用いた外壁では、部材の状態でもまず1回塗って、それを組み立ててから2回塗る、という工程を踏みました。——短期計画を終えて、今年度以降はどのようなことに取り組みますか。

下田 ● 建造物の一部では、シロアリの被害も出ているほか、見た目の劣化も否定できません。建造物の修繕が課題の一つです。

一方、復元整備計画の中では、中期や長期の計画として、短期計画で復元整備を終えた7つの建造物に続いて、あと6つの建造物を復元整備する方向を打ち出しています。この復元整備をどう進めていくか、検討する必要も生じています。

おかげさまで、昨年1年間で入場者数は約120万人に達して、目標を達成することができました。復元整備計画の効果は上がっています。今年度は、建造物の修繕と復元整備の二つをどう進めていくか、検討する予定です。



熊本城の遠景。手前には130年ぶりに再建された本丸御殿大広間、奥には天守閣がそびえる



【お問い合わせ先】

製造販売
日本エンバイロケミカルズ株式会社
提携先:ICI Paints Deco GmbH

木とともに生きる。 [キシラデコール]
XYLADECOR

キシラデコールに
関する情報満載!
www.xyladecor.jp



誠者を対象に、建材設備メーカーの製品採用意向等をアンケート調査
2007年9月17日号

大阪 〒541-0051 大阪市中央区備後町三丁目6番14号 アーバンクス備後町ビル TEL. 06-6268-3428 FAX. 06-6268-3420
東京 〒105-0023 東京都港区芝浦一丁目2番1号 シーバンスN館9階 TEL. 03-5444-9872 FAX. 03-5444-9860
www.jechem.co.jp